ご使用の手引き

ご使用前に、このご使用の手引きを十分、お読み下さい。
このご使用の手引きはお使いになる方が、いつでも見られるところに保管してください。

安全にご使用いただくために

このミシンを、安全にご使用していただくために、以下のことがらを守って下さい。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY

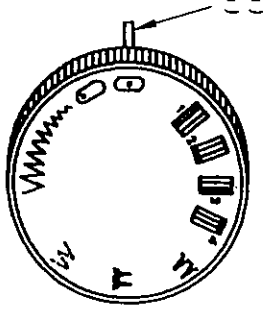
⚠ 警告　感電、火災の恐れがあります

1．一般家庭用交流電源１００Ｖでご使用下さい。
2．以下のような時は、電源プラグを引き抜いて下さい。
　・ミシンのそばを離れるとき
　・ミシンを使用したあと
　・ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注意　感電、火災、けがの原因となります

1．フットコントローラーの上に物を乗せないで下さい。
2．お客様自身での分解、改造はしないでください。
3．ミシンの操作時は、かまカバー、面板などのカバー類を閉じて下さい。
4．ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー（はずみ車）、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないで下さい。
5．曲がった針はご使用にならないで下さい。
6．縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないで下さい。
7．お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意して下さい。
8．以下のことをするときは、電源プラグを引き抜いて下さい。
　・針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき
　・上糸、下糸をセットするとき
　・ランプを交換するとき
　（ランプが冷えてから行って下さい。）
　・ご使用の手引きに記載のあるミシンのお手入れを行うとき
9．ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店にて点検、修理、調整をお受け下さい。
　・正常に作動しないとき
　・落下などにより破損したとき
　・水に濡れたとき
　・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき
　・異常な臭い、音がするとき
10．電源プラグを取扱うときには、以下の点に注意して下さい。
　・コンセントから抜くときは、必ずプラグを手で持って抜いて下さい。
　・濡れた手で使用しないで下さい。

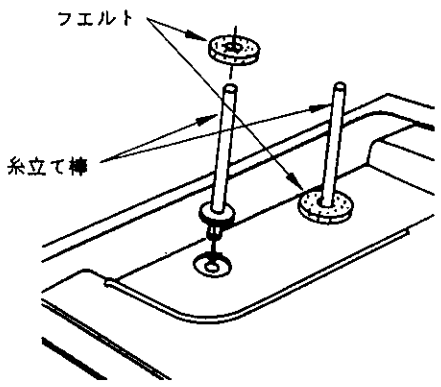
1.各部のなまえとはたらき



針をあげてダイヤルをまわし、模様をえらびます。

※針が布にささったままで模様選択ダイヤルをまわすと針がまがったり、折れたりする原因になります。

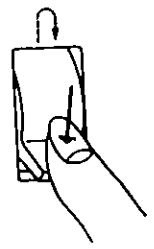
模様選択ダイヤル



糸立て棒を差し込み、フエルトをセットしてください。

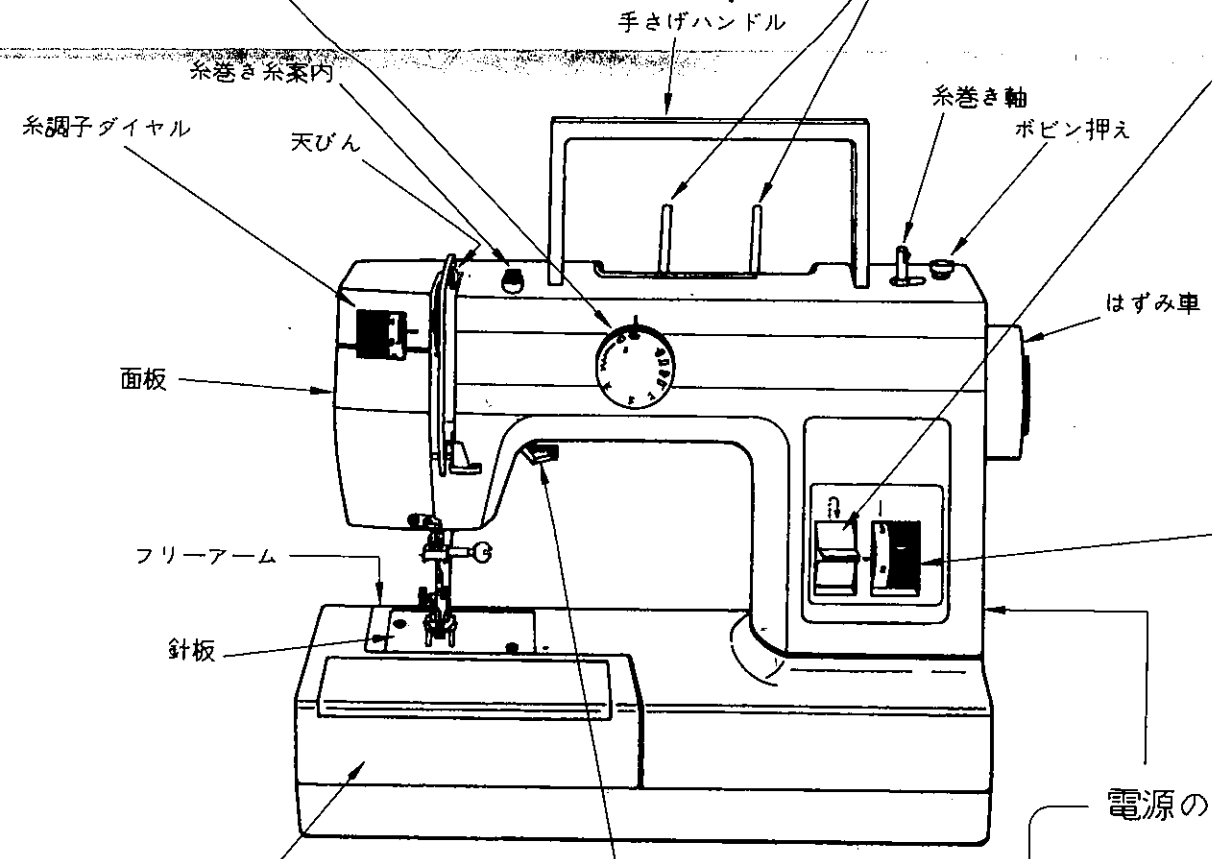
※ミシンを収納するときには、糸立て棒を取り外してください。

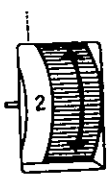
糸立て棒



返し縫いレバーを押している間は返し縫いをし、指をはなすと、前進縫いに戻ります。

返し縫いレバー

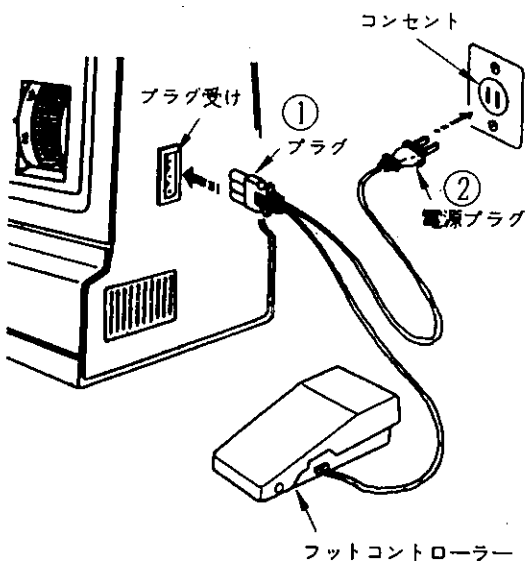




模様選択ダイヤルを（ ●または ◐ ）に合わせておいて、送りダイヤルをまわすと、送り（縫い目あらさ）は、上図のように変化します。

送りダイヤル（縫い目あらさの調節）

電源のつなぎかた

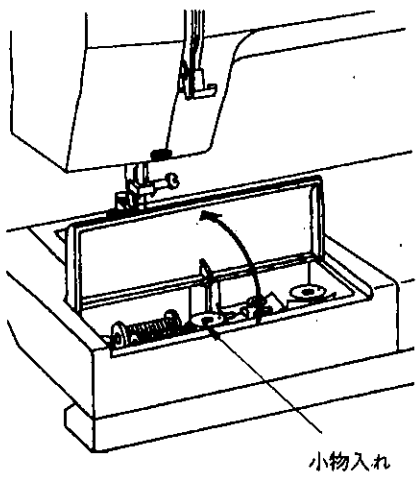


①プラグをプラグ受けにさしこみます。

②電源プラグをコンセントにさしこみます。

※電源は、一般家庭用（１００Ｖ５０/６０ＨＺ）です。
※ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

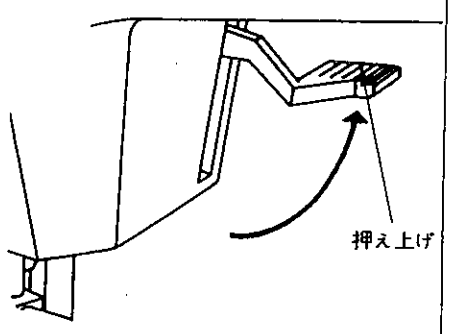
補助テーブル



★小物入れ

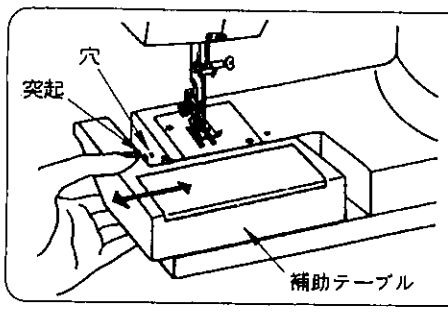
補助テーブルのフタを開けると小物入れになります。付属品や小物類を収納するために使います。

押え上げ



はずみ車を軽く手前にまわし、針を最上部にあげます。
押え上げで押えの上げ下げをします。
重ね縫いなど厚地の布を入れにくいときには、もう一段階あげていれます。

【フリーアームにするとき】

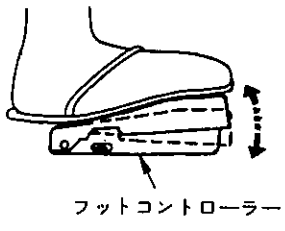


補助テーブルを横に引いてはずすとフリーアームになります。

★補助テーブルのつけかた

補助テーブルをフリーアームにそってさしこみ、突起を穴におさめます。

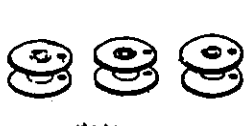
【速さの調節のしかた】



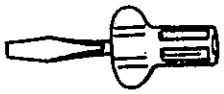
ミシンのスピードは、フットコントローラーの踏み込みで調整します。

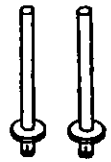
浅く踏みこむ・・・・・・おそい
深く踏みこむ・・・・・・はやい

2.標準付属品


ボビン

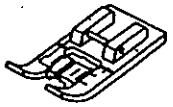
針

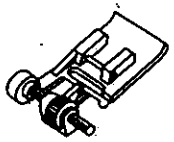

ねじまわし（小）

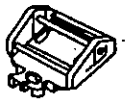

糸立て棒

フエルト

油さし

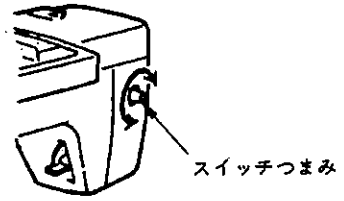

ボタンホール押え


くけ縫い押え


ファスナー押え

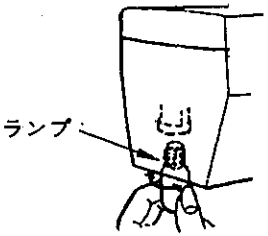
3.照明ランプ

★つけかた、消しかた



面板の裏側にあるスイッチつまみをまわします。

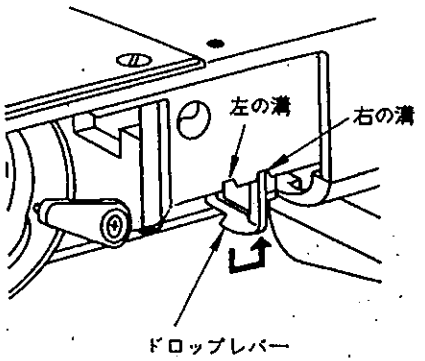
★ランプのとりかえかた



1.はずすときは、ランプを左へまわします。
2.つけるときは、ランプを右へまわします。

※ランプのとりかえは、電源プラグを抜いてから行なってください。

4.送り歯のさげかた

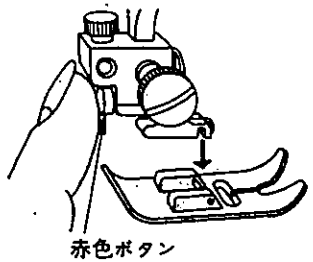


ベッドふたをひらいて、ドロップレバーを押しさげたまま動かして右の溝に入れます。

〈あげるとき〉
ドロップレバーを左の溝に入れます。

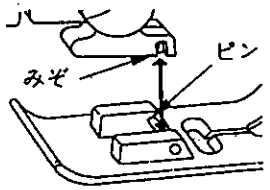
5.押えのはずしかた、つけかた

〈はずしかた〉



針と押えをあげ、押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずします。

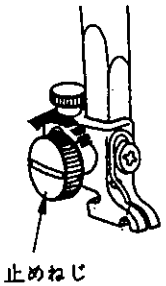
〈つけかた〉



押えホルダーのみぞの下に押えのピンを合わせておきます。
押えを静かにおろし、ピンをみぞに入れます。

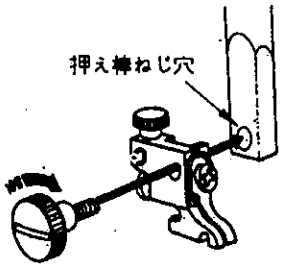
6.押えホルダーのはずしかた、つけかた

〈はずしかた〉



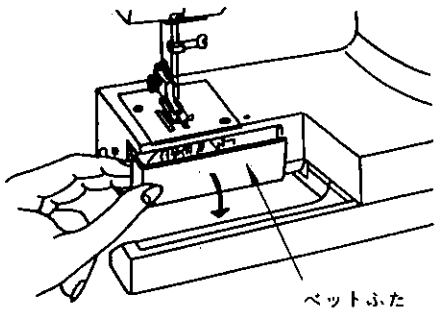
止めねじを左にまわして、はずします。

〈つけかた〉

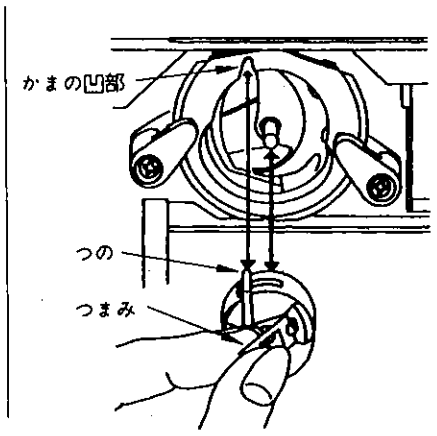


押えホルダーの穴と押え棒のねじ穴を合わせ、止めねじを右にまわしてしかりとりつけます。

7.ボビンケースのはずしかた、入れかた



針と押えをあげベット
ふたをひらきます。

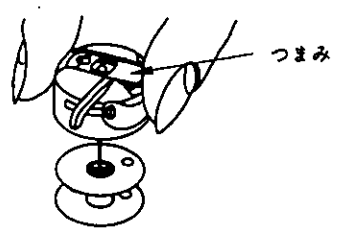


〔はずしかた〕
ボビンケースのつまみ
を持って、とりだします。

〔入れかた〕
ボビンケースのつまみ
を持って、かまにとり
つけます。

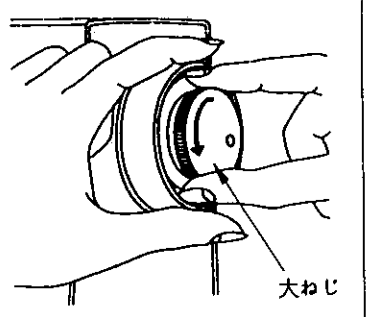
※入れるときには、ボビンケース
のつのを、かまの凹部に合わせ、
奥の方へいっぱいに入れてから、
つまみをはなし、ベットふたを
しめます。

8.ボビンのはずしかた

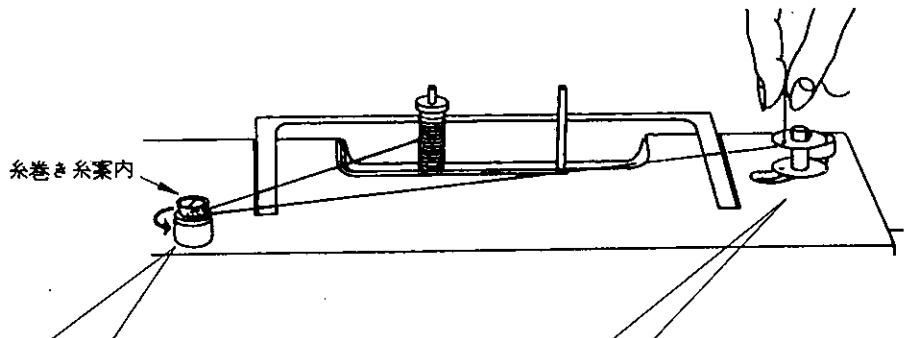


ボビンケースのつまみをとじて
下に向けると、ボビンがはずれ
ます。

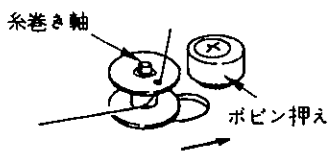
9.ボビンに下糸を巻くには



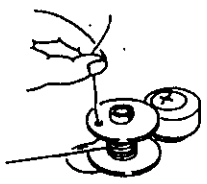
①はずみ車を押えて、大ねじを
ゆるめます。



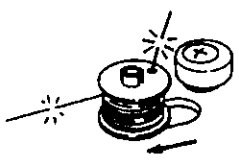
②糸こまからひきだした糸を、
糸巻き糸案内にかけます。



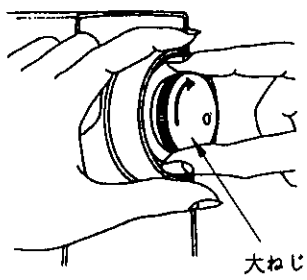
③ボビンの穴に内側から糸
を通し、ボビンを糸巻き
軸にさしこみ、ボビン押
えの方に押しつけます。



④糸の端をつまんだまま、
巻きはじめます。
糸がボビンに3重ぐら
い巻きついたら、糸を
離します。



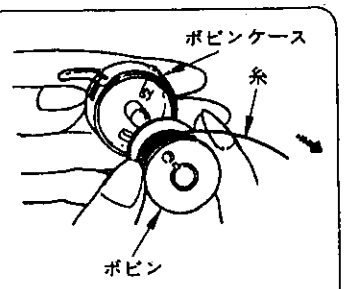
⑤巻きおわったらミシンを
止めてボビンをもとに戻
して、糸を切ります。



⑥はずみ車を押えて、大ねじ
を時計回りにしっかりしめ
ます。

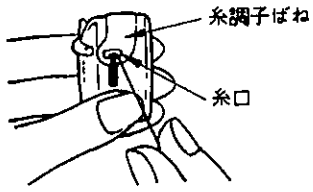
※糸巻き軸の移動は、ミシンを止めてからおこなってください。

10.ボビンをボビン
ケースに入れるには



①糸の端を、図の方向（時計
回り）にたらして、ボビン
ケースにいれます。

②みぞに糸を通します。

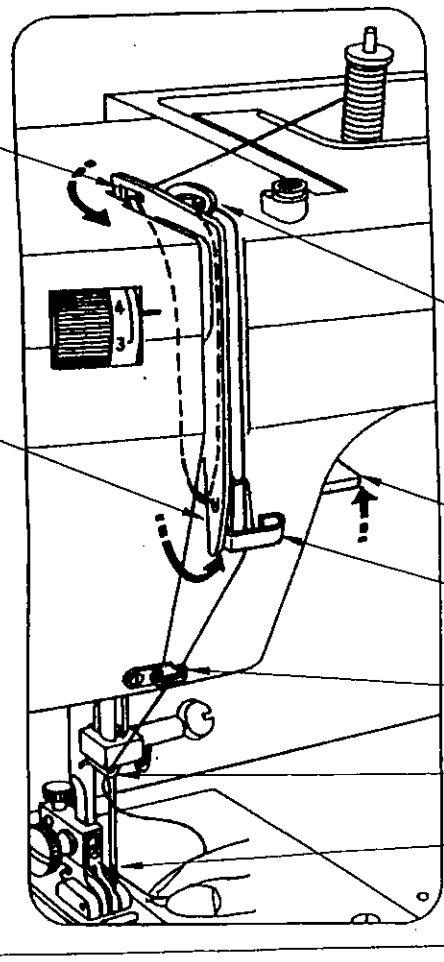


③糸を引いて、糸調子ばねの
下を通し、糸口に引き出し
ます。
糸は10cmほど出しておき
ます。

11.上糸を掛けるには

※糸こまを軽く押えながら、番号順に正しく糸を掛けてください。

天板糸掛けに巻き
つけるようにして
掛け、糸案内板に
そっておろします。②



④はずみ車を手前に回し、
天びんを上部にします。
糸を左から後ろを回し
て右へ出し、手前に引
き出して、まっすぐ下
におろします。

糸案内板の下をま
わして、右上に引
きあげます。③

①押え上げをあげます。

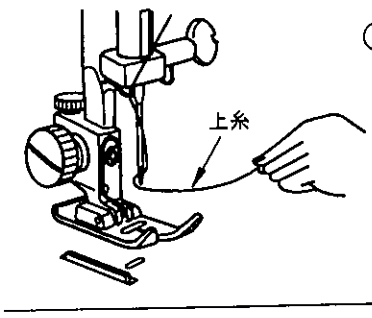
⑤糸掛け（上）に右から
掛けます。

⑥糸掛け（下）に左から
掛けます。

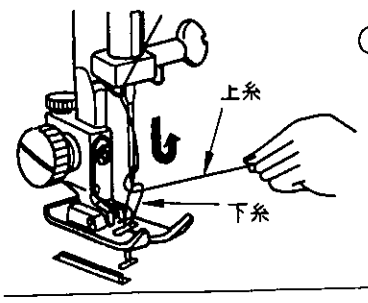
⑦針棒糸掛けに左から
掛けます。

⑧針には、手前から向こう
側に糸を通し、糸の端を
15cmほど引き出してお
きます。

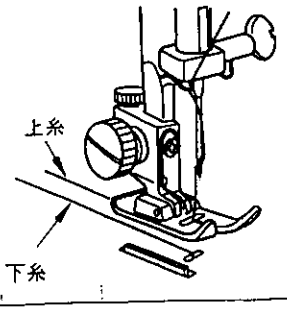
12.下糸を引きあげるには



①左手で上糸の端を
つまんでややゆる
めて持ちます。



②右手ではずみ車を
手前にまわし針を
いったんさげて
から再びあげます。
天びんが最上部に
きたら上糸を軽く
引くと、下糸が
「輪」になって
出てきます。



③引き出した下糸と
上糸を、押えの
下から向こう側へ、
15cmほど引き出し、
そろえておきます。

１３.糸調子を出すには

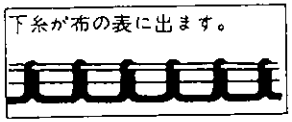
素材や縫い方によって、糸調子ダイヤルをまわして調整します。
糸調子が正しく調整されていないと、縫い目がきたなくなり、
布にしわがよったり、糸が切れたりします。

〔直線縫いの正しい糸調子〕

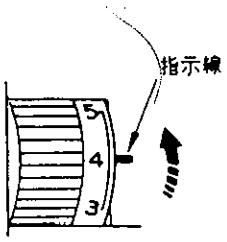
上糸と下糸が布のほぼ中央で、まじわります。

〔上糸が強い場合〕

下糸が布の表に出ます。

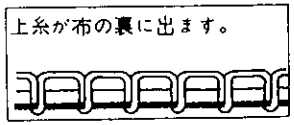


糸調子を弱めます。

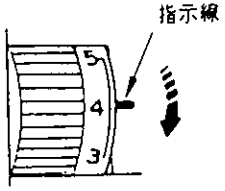


〔上糸が弱い場合〕

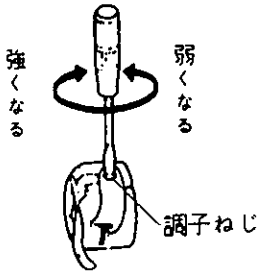
上糸が布の裏に出ます。



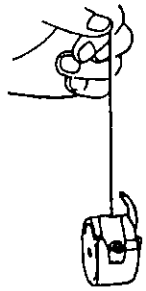
糸調子を強めます。



１４.下糸調子を調節するには



ボビンケースの調子ねじをまわして調節します。
右にまわすと、下糸調子は強くなり、左にまわすと下糸調子は弱くなります。



〔目安〕
糸を持って上下にかるくゆらしたとき、ボビンケースがゆっくりさがるぐらいに調整します。（約５０ｇ）

１５.直線縫い

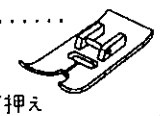
【セットの目安】

糸調子ダイヤル.....２～６

模様選択ダイヤル..... ●（または ●）

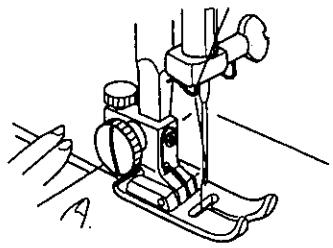
送りダイヤル.....1.5～４

押　　え.....



ジグザグ押え

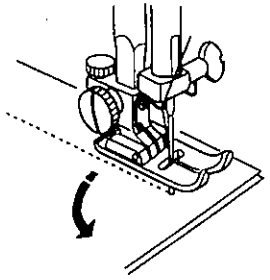
★縫いはじめ



糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。押えをさげて、ゆっくり縫いはじめます。

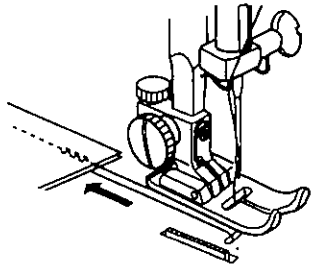
※縫いはじめのほつれ止めは、返し縫いレバーを押しながら、数針返し縫いをします。

★縫い方向をかえる

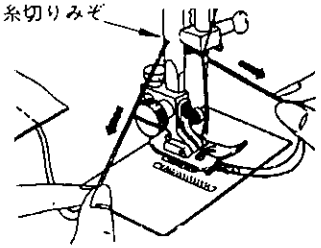


ミシンを止め、針を布にさしたままで押えをあげ、布をまわして縫い方向をかえます。

★縫いおわりと糸の切りかた



返し縫いレバーを押しながら、数針返し縫いをします。
押えをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。



押え棒の糸切りみぞで糸を切ります。

16.ジグザグ縫いと裁ち目かがり

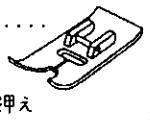
【セットの目安】

糸調子ダイヤル.....2～6

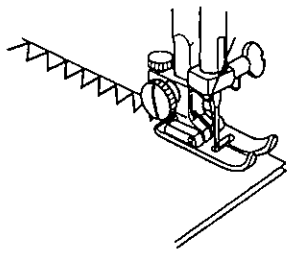
模様選択ダイヤル.....

送りダイヤル.....0.5～4

押　　え.....



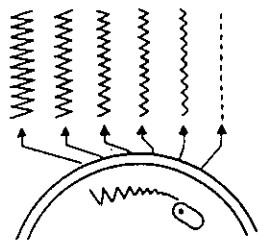
ジグザグ押え



裁ち目のほつれ止めをするときには、針が右側にきたとき、布のきわからはずれるかはずれないかぐらいのところに落ちるようにします。

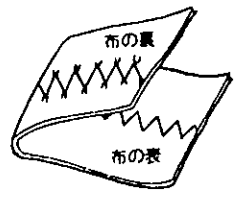
※試し縫いをして、適切な糸調子をだしてください。

※目のとびやすい伸縮性の布や、目のつんだ布には、ブルー針を使用すると効果があります。



※送りダイヤルを（1）に合わせて、模様選択ダイヤルを間でかえると、縫い目の巾（ジグサグ巾）は、図のように変化します。

《ジグザグ縫いの糸調子》



ジグザグ縫いの糸調子は、布の裏側に上糸が少し出るくらいに調節します。

17.トリコットステッチ

【セットの目安】

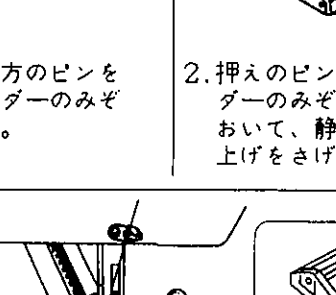
糸調子ダイヤル.....3～6

模様選択ダイヤル.....

送りダイヤル.....0.5～1.5

押　　え.....

ジグザグ押え



ジャージやトリコットなど伸びやすい布どうしのはぎ合わせに適しています。また、この縫い目で布のへりをかがると、ほつれ止めや、かえり防止に効果があります。

※目のとびやすい伸縮性の布や目のつんだ布には、ブルー針を使用すると効果があります。

18.くけ縫い

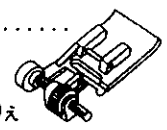
【セットの目安】

糸調子ダイヤル.....1～4

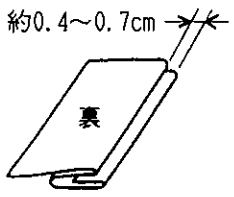
模様選択ダイヤル.....

送りダイヤル.....1～3

押　　え.....



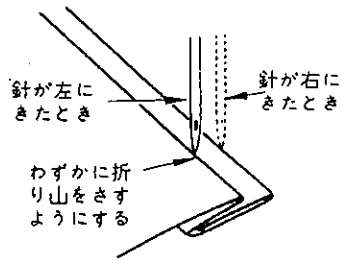
くけ縫い押え



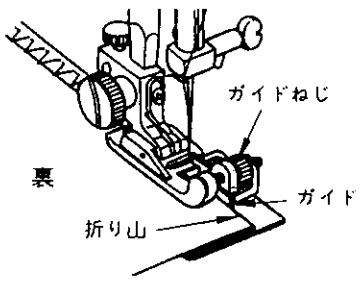
（縫い方）

① 布を図のように上の折り山と下の折り山を約0.4～0.7cmほどずらします。

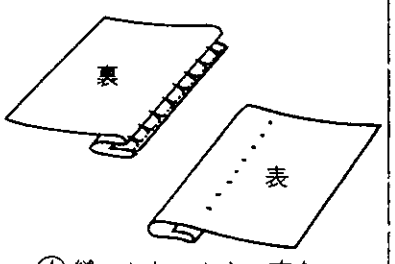
※アイロンで押えると、きれいに仕上がります。



② 針がもっとも左にきたとき、わずかに折り山をさすように布をおいて、押えをさげます。



③ ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針がはずれないように縫います。



④ 縫いおわったら、布をひろげます。

19.ファスナーつけ

【セットの目安】

糸調子ダイヤル.....3～6

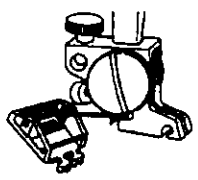
模様選択ダイヤル.....

送りダイヤル.....1.5～4

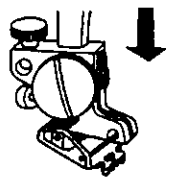
押　　え.....

ファスナー押え

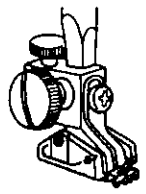
【ファスナー押えのつけかた】



1.押えの後方のピンを押えホルダーのみぞに入れる。

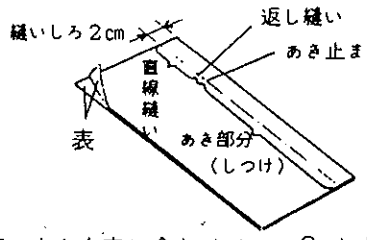


2.押えのピンを、ホルダーのみぞの真下において、静かに押え上げをさげます。



3.ファスナー押えがついた状態。

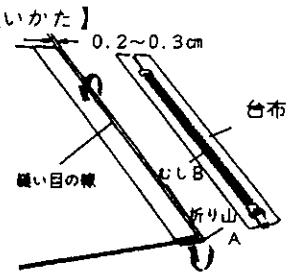
【準　備】



1.布を中表に合わせて、あき止まりまで縫います。

2.あき部分は、しつけをします。

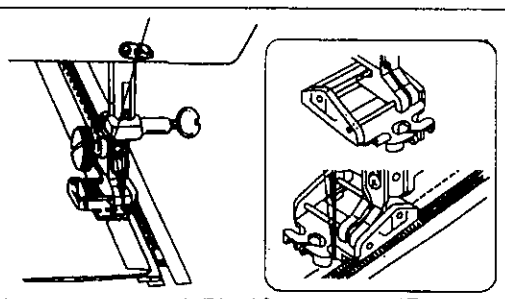
【縫いかた】



1.上の布の縫いしろを、縫い目の線で折り返します。

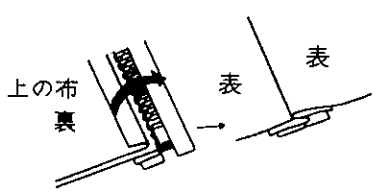
2.下の布の縫いしろは、縫い目の線から0.2cm～0.3cm出して、下に折り返します。

3.ファスナーのむしBを、折り山Aにそわせて、布をファスナーの台布にのせます。

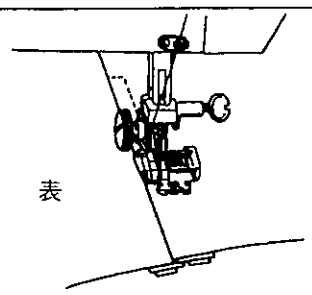


4.ファスナーの左側を縫うときは、押えを右側から押して左いっぱいによせます。

5.ファスナーの端にそって縫い、布端から5～6cm手前でいったんミシンを止め、針を布に浅くさしたまま押えをあげます。さらに、ファスナーのスライダーを押えの向こう側にずらし、押えをおろして最後まで縫います。



6.左側を縫い終わったら、スライダーをもとにもどして、上の布をファスナーの上にかぶせます。



7.右側を縫うときは、押えの左側を押して右いっぱいに寄せます。

縫いかたは、5と同じです。

20.シェルタック

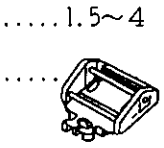
【セットの目安】

糸調子ダイヤル.....6～9

模様選択ダイヤル.....

送りダイヤル.....2～3

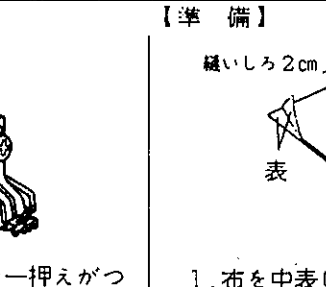
押　　え.....



ボタンホール押え

1.布をバイアスに2つ折りにする。

※糸調子は6～9を目安に試し縫いをして、シェルタックの山がきれいにでるように調節してください。



2.右の針位置が、布の「輪」の外側きわにおりるようにして縫います。

3.布をひらいて、山をアイロンで片側に倒します。

21.ボタン穴かがり

【セットの目安】

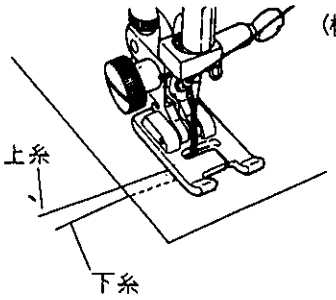
糸調子ダイヤル.....1～5

模様選択ダイヤル.....1 2 3 4

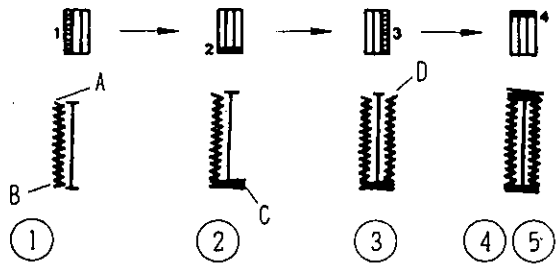
送りダイヤル.....0.3～1

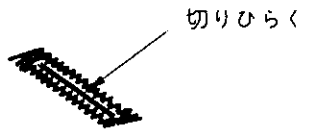
押　え.....

ボタンホール押え



(模様選択ダイヤル)





※縫うものと同じ布で試し縫いをして、セットを確かめましょう。

※伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地をはってください。

《縫い方》

① 模様 1 を選びます。上糸と下糸を左横に引き出しておき、縫い始めの位置A点に針をさして押えをおろし、左側を必要な長さB点まで縫います。

② 針をあげて模様 2 を選び、かんぬきを5針くらい(C点)まで縫い、ミシンを止めます。

③ 針をあげて模様 3 を選び、左側と同じ長さ(D点)まで縫い、ミシンを止めます。

④ 針をあげて模様 4 を選び、かんぬきを5針くらい縫います。

⑤ 押え上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10cmくらい残して切ります。上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸をむすびます。

⑥ 糸を切らないように中央部分を切りひらきます。

22.ボタンつけ

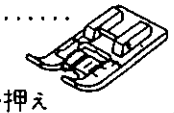
【セットの目安】

糸調子ダイヤル.....3～7

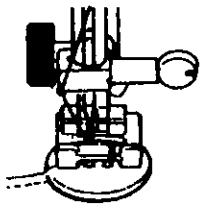
模様選択ダイヤル.....

ドロップレバー..... 送り歯をさげる

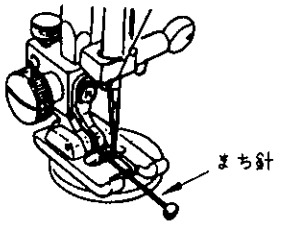
押　え.....



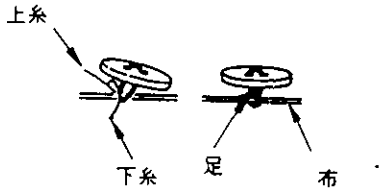
ボタンホール押え



1.模様選択ダイヤルを ⊂⊃ に合わせます。ボタンの左の穴に針をさし、左右の穴を真横にならべて押えをおろします。



2.押えの中央にまち針をのせます。針をあげ、模様選択ダイヤルをまわして、ボタンの右の穴に針が落ちるようにします。針が右に移動しない場合には、はずみ車を手前にまわして、針をいったんさげてから、再び針をあげて、模様選択ダイヤルをまわします。



3.10針くらい縫ったら、上糸、下糸を20 cm くらい残してきります。

4.上糸をボタンと布の間に引き出してから、上糸を強く引いて下糸をボタンと布の間に引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻きつけて結びます。

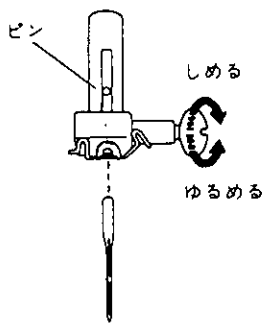
23.布と糸と針の関係及び針のはずしかた、つけかた

布に適した糸と針の目安			
	布	糸	針
うすい布	クレープ、デシン、ボイル、ローン、オーガンジー、ショーゼット	細手絹糸 細手綿糸 (細手化繊糸)	9 番 または 11 番
普通の布	普通もめん、ビケ、サージ、その他一般服地	絹糸50番 綿糸50番～80番 (化繊糸50番～60番)	11 番 または 14 番
厚い布	デニム、ツィード、ギャバジン、コート地	絹糸50番 綿糸40番～50番 (化繊糸40番～50番)	14 番 または 16 番

※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、糸と針を選び、試し縫いをして確かめてください。

※原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

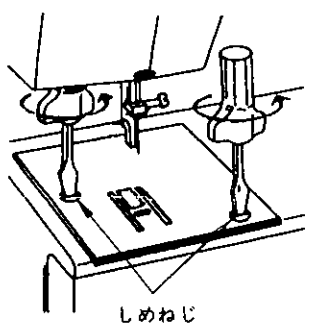
※伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目のとびやすい布地などには、ブルー針を使用すると効果があります。



〔はずしかた〕
針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針をはずします。

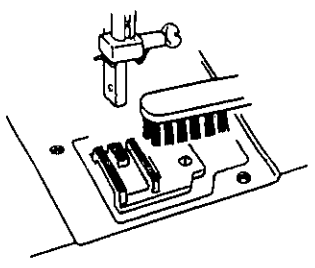
〔つけかた〕
針の平らな面を向こう側に向けて、針止めにさし、ピンにあたるまで押し込み針止めねじをかたくしめます。

24.送り歯の手入れ



① 針と押えホルダーをはずします。

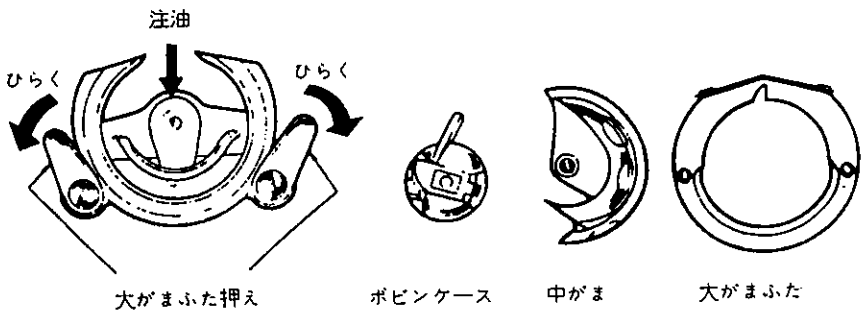
② 針板のしめねじをはずして、針板をはずします。



③ 送り歯のごみを、はけ・ブラシなどで手前に落とします。

④ 針板をつけて、ねじをしめます。

25.かまの手入れ



① 針をあげて、ベッドふたをあけ、ボビンケースをはずします。

② 大がまふた押えを左右にひらき、大がまふたと中がまをはずします。

③ ブラシでかまの内部を掃除し、矢印のところに1～2滴ミシン油を注油して、布で軽く拭きとります。

④ 中がまを油布で拭きます。

⑤ はずしたときと逆の順序でくみつけます。

26.ミシンの調子が悪いとき

調子が悪いとき	その原因	なおしかた
上糸が切れる	1.上糸の掛けかたがまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 2.上糸調子が強すぎる。 3.針がまがっていたり、針先がつぶれている。 4.針のつけかたがまちがっている。 5.布に対して針や糸が細すぎるか太すぎる。	上糸を正しく掛けなおす。 上糸調子を弱める。 針を交換する。 正しくつける。 適切な針や糸をえらぶ。
下糸が切れる	1.ボビンケースに下糸の通しかたが、まちがっている。 2.ボビンケースの調子ばねを強くしめすぎている。 3.ボビンケースの中やばねの中に、ごみがたまっている。	正しく通しなおす。 ねじを少しだけゆるめて、下糸調子を適切にする。 ボビンケースを掃除する。
針が折れる	1.針のつけかたが、まちがっているか、針がまがっている。 2.針を布にさしたままで　模様選択ダイヤルをまわした。 3.布を無理に引いた。 4.布に対して針が細すぎる。	針を交換するか正しくつけなおす。 針を布より上にあげてからダイヤルをまわす。 布を無理に引かない。 針を交換する。
縫い目がとぶ	1.針のつけかたがまちがっているか、針がまがっている。 2.布に対して針や糸が細すぎるか太すぎる。 3.伸縮性のある布や目のつんだ布にブルー針を使っていない。 4.上糸の掛けかたがまちがっている。	針を交換するか正しくつけなおす。 適切な針や糸を選ぶ。 ブルー針を使う。 上糸を正しく掛けなおす。
縫い目がしわになる	1.上糸または下糸の調子が強すぎる。 2.上糸・下糸の掛けかたがまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。	糸調子を適切にする。 糸を正しく掛けなおす。
縫い目に輪ができる	1.上糸または下糸の調子が合っていない。 2.布に対して針や糸が細すぎるか太すぎる。 3.上糸や下糸の掛けかたがまちがっている。	糸調子を適切にする。 適切な針や糸を選ぶ。 糸を正しく掛けなおす。
布送りがうまくいかない	1.送り歯に糸くずがたまっている。	送り歯を掃除する。
ミシンの回転が重い 音が高い	1.送り歯やかまに、ごみや糸くずがたまっている。 2.かまの油がきれている。	掃除する。 注油する。

【修理サービスのご案内】

●お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確めの上、大切に保存して下さい。

●無料修理保証期間内（お買い上げ日より1年間です）およびそれ以後の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申しつけ下さい。

【修理用部品の保有期間】

●当社は動力伝達機能部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

【無料修理保証期間経過後の修理サービス】

●使い方の手引きに従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。

①保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
②浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
③お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
④お買い上げ店、又は当店の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
⑤職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。

●長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。

●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

	仕　様
使用電圧	100V　50／60Hz
消費電力	80W／ランプ12W
外形寸法	幅36.8cm×奥行15.5cm×高さ28.5cm
重　量	7.5Kg（本体）
使用針	家庭用　HA×1
縫速度	毎分700回転

蛇の目ミシン工業株式会社
〒104　東京都中央区京橋3-1-1
TEL　03(3277)2361

730-817-002